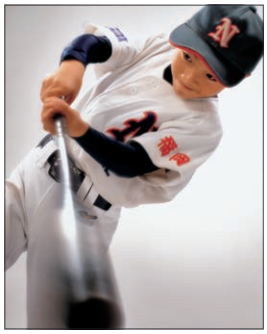
FUJIFILM
Value from Innovation

2016 富士フイルム 営業写真コンテスト作品集

アルバム



アルバム

アルバム

◆2016富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品集をお届けします。53回目を迎える今回は、応募総数11,157点（前年比100％）応募者数3,458名（前年比93％）となりました。

技術の向上・標準化が図られ、より一層進化……

◆ここ数年はデジタルならではの新しい発想による撮影が多く見られましたが、それがここにきてさらに進化し、絵作りや構図等で技術の向上、標準化が図られてきているように感じました。

◆また、プラスαの味付けを加えた作品も多く見られ、例えば家族のロケーションフォトでもこれまでとは違った斬新な表現が見られたり、ビジネスポートレートでも新しいビジネスチャンスに繋がる作品も多く、表現という観点でさらに進化を遂げていると思います。

◆プリント品質においても、全体的に安定しており、高い品質レベルを実現しています。写真館とラボとの継続的な連携が実ってきていることが現れています。

◆分野別にみると、まずマタニティーフォトではお腹にシールを貼ったものが多くみられました。いままではお腹にペイントされるというのは数多くあり、面白さはありますが、そこばかりフォーカスするものも多く、綺麗なマタニティーフォトを目指してほしいと思いました。ただ、普段着の撮影で、その方の日常やその人そのものを表現しているものもあり、好感が持てるマタニティーフォトも見受けられました。

◆婚礼写真は、アルバムの1カットのような写真が多かったのですが、オーソドックスに綺麗な写真が少なく、特に和装のしっかりした写真は少なかったように思います。

◆明るい感じの還暦写真が多く見られました。新しい感覚のカジュアルな絵柄が多くなり、ビジネスチャンスの拡がりを予感させてくれました。

◎さて、審査の段階で気になった点を紹介します。

◆ピント不良が多かったことが気になりました。カメラの中央部重点測光で撮っているのですが、顔にピントがきていない、特に前ピンが多かった。ピントの合焦音でそのまま撮影しているのだと思いますが、もう一度確認してほしいと思いました。

◆不良なフレアの写真が多く、特に白バックでの写真で多く見られました。カメラの光軸に入ってくる光を、ライティング、あるいはライトカットでどうカバーしていくか、その工夫をしてほしいと感じました。

◆成人、子供などポートレートのアップの写真で、良い表情ながらもキャッチライトが入っていなくて残念な写真が見受けられました。

◆子供や若いカップルで、被写体として明るい雰囲気なのですが、なぜ、黒バックで撮らなければならないのか、という写真が多く見られました。

◆フレーミング、トリミングを真剣にやってもらい、売るための最終カットとして応募してほしかった。台紙に貼った形では良いのかも知れませんが、そのままプリントでの応募がみられ、完成形として応募してほしいと思います。

◆全体をみると、良い写真とそうでない写真との格差が激しいと感じました。もう一度、プリント品質に関して、ラボとの連携を密にすべきと感じました。

――次回もまた意欲あふれる作品を期待します。

作品集への掲載順は賞の順、写真館様所在地の北から順、同一都道府県内は郵便番号順で掲載しています。一部、レイアウトの都合上、順番の入れ替わりがあります。

CONTENTS

2016富士フイルム営業写真コンテスト作品集

2016富士フイルム営業写真コンテスト入賞発表

●金賞……1
●銀賞……2
●銅賞……7
●審査員特別賞……17
●優秀賞……18
●テーマ賞……21
（大人ポートレート写真）
●テーマ賞……26
（入卒園・入卒学・七五三写真）
●テーマ賞……31
（子供ポートレート写真）
●テーマ賞……36
（家族写真）
●テーマ賞……41
（婚礼・成人式写真）
■金賞作家を訪ねて……46
■INFORMATION
富士フイルム営業写真コンテスト
表彰式開催……48

金賞

「ハーフバースデー」　朝風恵子　あさかぜ写真館（北海道）

データ：デジタル一眼レフ　50㎜　F4.0　1/125　ストロボ

■選評

お子さんに対する愛情を、お洒落にかつ上品に表現した作品で、作者の高い技術力と感性が発揮された見事な写真です。お母さんの体のラインを斜めにして、手前の脚を前に出すことで女性ならではの綺麗な流れを表現し、さらには色調の統一、上下のトリミングも絶妙です。こうした写真の場合、お子さんをメインにしてお母さんは脇役に徹して愛情を注ぐという形が一般的ですが、この写真ではお母さんが自分のライフスタイルをしっかりと出した「自己表現」という側面も感じられます。とはいいつつも、ライティングやお母さんの視線等でメインのお子さんに目が行くように工夫されており、作者の表現力の高さには敬服します。

■喜びの声

４年ぶりの上位入賞がまさかの「金賞」。身に余る立派な賞をいただき、喜びを感じるとともに、身の引き締まる思いでおります。

この写真のママは当写真館を折々にご利用くださっているお客様で、同じドレスと帽子でマタニティーフォトも撮影されていました。ご出産後も変わらぬスタイルの良さと、カッコいい女性が赤ちゃんを抱っこした時に浮かべる優しい母の微笑をイメージして撮影をさせていただきました。実はこの写真、１回目の撮影では赤ちゃんの表情を十分に引き出せず、こちらから再撮をお願いしたという経緯があります。赤ちゃんの元気いっぱい全開スマイルを見て、妥協せず納得いくまで撮らせていただいて本当に良かったとしみじみ思いました。営業写真は何よりお客様あってのもの。お客様の人生の節目に立ち会える喜びと責任を胸に、これからも丁寧に心をこめて撮影に臨みたいと思っております。

北海道からの応募では初めての「金賞」ということで、伊豆倉会長をはじめ北海道営業写真家協会の仲間たち、北海道写真館連合会の先輩方には何よりのご恩返しができたものと思っております。また、ご指導いただいている「風雲の会」の柴田代表、丸山先生、サークル「風」の先輩方、小樽写真販売の山本様、当写真館のお客様……お世話になっているたくさんの方々のお顔が目に浮かびます。本当にありがとうございました。今後とも受賞者の名に恥じぬよう研鑽を重ねてまいります。

（制作ラボ：㈱小樽写真販売）

銀賞

「Maternity」　佐藤 喬　㈲フォトスタジオさとう（北海道）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F6.3　1/125　ストロボ

■選評

被写体を真ん中に据えて、過度な演出をしていないマタニティー写真ですが、そのシンプルさがお母さんの喜びとお腹のあかちゃんに対する愛情を感じさせます。ジーンズであぐらをかいていますが、それがこの方の生活感、在り方がそのまま表現されていて、優しい表情と相まって、画面からわき出てくる温かみが伝わってきます。マタニティー写真では、お腹の大きさを表現するために横を向くのが一般的ですが、この写真では後ろに手をついて正面からストレートに撮っていて、これまでにない新しいマタニティーフォトだと言え、シンプルで見た目の麗しさがある写真となっています。

■喜びの声

このたびは素晴らしい賞をいただき、本当にありがとうございます。
富士フイルム営業写真コンテストに応募させていただいて今回で10年目。その10年目の節目についに夢にまで見た上位入賞、憧れていた帝国ホテルでの表彰式！
本当にうれしい気持ちでいっぱいです。
今回入賞させていただいた写真はマタニティーフォトですが、自分自身この数年、積極的に取り組ませていただいている撮影でして、そのマタニティーフォトでこのような結果を出せたことは本当に感激です。
しかしながら、この写真を撮影したのは私ですが、いつも、「こんな感じに撮ったらいいんじゃない？」などのアドバイスをしてくれたり、一緒にいろいろ考えながらアシスタントをしてくれている妻がいて、このような賞に結び付いたのではないのかと思っております。
いつもありがとう。
そして何より、当館に足を運んでくださるお客様、いつもご指導くださる業界の先輩の方々、この写真をプリントしてくださった富士フイルムイメージング様皆様のお力があっての結果だと思います。
本当に感謝いたします。
これからもお客様に感動していただける写真作りを心がけ勉強していきたいと思います。
本当にありがとうございました。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック㈱）

銀賞

「孫と一緒の卒寿記念」　滝澤一浩　タキザワ写真館（長野）

データ：デジタル一眼レフ　F5　1/80　ストロボ

■選評

おばあちゃんの卒寿の喜びと、それを祝うお孫さんの優しさが感じられる微笑ましい写真です。お孫さんの立ち位置を含め、おばあちゃんが主役のなかで立体感を表現しています。黄色の衣装というのは表現が難しいものですが、この作品では派手にならず、人物を上手く引き立たせて顔に目が行くように計算され、さらに故意に体を斜めにしたお孫さんで微笑ましさを助長しています。こうした写真の場合、構図としてお孫さんをもっと出したくなるものですが、それを敢えて抑えて顔だけにして、おばあちゃんの存在価値を消すことなく、しかもバランス良く表現している点に作者の技量の高さがうかがわれます。

■喜びの声

このたびは栄誉ある富士フイルム営業写真コンテストの銀賞をいただき、誠にありがとうございます。これもひとえに受賞作品のお客様の中村様ご家族、故有賀長敏先生、小林正明先生、サークル「風」の柴田昌勝代表をはじめ、諸々の先輩、同輩、いつも無理を聞いてくださるアートカラーラボの方々、私の家族…私に関わる方々のおかげです。
今回の受賞写真のお客様は、お孫さんの幼い頃から撮らさせていただいており、いつも明るく、いい雰囲気のご家族であります。そして、この写真の主人公のとても90歳とは思えない若々しいおばあちゃまの笑顔に助けられての一枚が、受賞写真となりました。ありがたいことです。そして、写真を通じて家族の暮らしを大切にしたいとの想いと、お客様の声の原稿に書いていただいたことが、私にとっての何よりの励みになります。これからも一枚の写真を通してお客様に夢、喜び、希望を届けられるよう、そして私自身、生かされていること、ごくごくあたり前の日常で仕事ができることがどんなに貴重なことか、感謝しながら、日々精進していきたいと思います。
また私のご縁があるすべての方々に感謝申し上げます。生かしていただいてありがとうございます。
〈弱いから迷いがあるから一生懸命〉
（制作ラボ：㈱アートカラーラボ）

銀賞

「小西家」　目﨑之教　奨楽写真館（和歌山）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-135㎜　F11　1/125　ストロボ

■選評

少林寺拳法一家を撮影した家族写真ですが、お父さんにとっては嬉しさこの上ない１枚になると思います。自分の好きな少林寺拳法を子供達がやってくれて、それを形に残してくれていることがお父さんの笑顔に表れています。そしてそれを素直に受け入れている３人の子供達の表情も素晴らしい。肩に持っていった手も、ややもすると不自然になりがちですが、それも違和感なく自然で、優しく包み込み、さらに、お父さんに体を寄せていることで、仲の良い親子の関係性も表現しています。下が暗すぎる、という指摘もありそうですが、この写真の場合は足元が落ちていることで表情に目が行くように工夫されています。ライティングで新しさを出した家族写真だと言えます。

■喜びの声

このたびは栄誉ある「銀賞」に選出をいただき光栄に存じます。ありがとうございます。
小西様は、これまでも機会あるごとに撮影をさせていただいております。私どもでは、こうして何度もお運びくださるお客様には、お越しいただくたびに違ったテイストのお写真を味わっていただけるよう、努めております。
写真館の伝統的表現を探究しつつも、さらに新しい表現を模索していく、クリエイターとして大切な作業だと考えています。
米国の巨匠アンセル・アダムスに「ネガは楽譜であり、プリンティングは演奏である」という有名な言葉があります。これはプリンティングの意味と、その重要性を的確に説いた名言だと私は思っています。
時はうつり、ネガはデータに代わりましたが、自分の楽譜で、至高の演奏で、観客を魅了したい、という思いに変わりはありません。旧フジカラーサービス時代より四半世紀にわたり、私どもの写真制作に携わってくださる技術者の方々はこれまで、真のプロフェッショナルとして楽譜以上の名演奏を奏でてくださっています。本当にありがとうございます。
時間が経つにつれ、受賞の実感がじわじわと湧いてまいります。これまで以上に、恥ずかしい仕事はできないと、重責も感じています。父の代から地元で営業させていただいて54年、素晴らしいお客様方に恵まれ、かわいがっていただき、大勢の皆様に支えられて、ここに奨楽写真館がございます。感謝の気持ちでいっぱいです。心より厚く御礼を申し上げます。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック㈱　九州生産グループ）

銀賞

「凛」　住吉竜典　フォーカスワン（広島）

データ：デジタル一眼レフ　85㎜　F1.8　1/125　ストロボ

■選評

新しい感覚のウエディングフォトです。色彩バランスに優れているほか、ライティングも上手く、背景をポイントにトップライトを当てて人物を引き出し、ドレスの後ろにもピンポイントで光を当てて、フォルムを綺麗に写し出しており、技術力の高さが感じられます。また、背景に置かれたアンティーク調の家具等も、光を落として表現していることで主役を引き立たせ、芸術的ともいえる構図となっています。ブライダルのフォーマル写真が少なかったなかで、それをしっかり撮ることの重要性を説いた写真だと言えます。しかもいままでどおりのテクニックや表現ではなく、ライティング、環境、色彩を変えることで新しい型ものとして提案してくれた１枚です。

■喜びの声

このたびは、このような名誉ある賞をいただきまして、まことにありがとうございます。初めて入賞の知らせを聞いたとき、そして、初めて「銀賞」の通知を目にしたときの驚きと興奮、そして感動はきっとこれからも一生忘れることはないように思います。
私のような若輩者が、このような素晴らしい賞をいただけたのも、日々丁寧にご指導くださる諸先輩方、日々の練習に付き合ってくれ、いつも近くで支えてくれている妻、そして何よりも大切な人生の節目の撮影に私ども、コマエ写場フォーカスワンをお選びいただいているお客様方のおかげに他なりません。いつも本当にありがとうございます。
今回受賞させていただいた中で最もうれしかったことは、周りの方々に、自分のことのように喜んでいただけたことです。
いろいろな方におめでとうと言っていただき、そのたびに大変な賞をいただいたのだと改めて実感いたしました。
私自身、まだまだ経験も浅く、入り口をようやく覗いたくらいに過ぎないのかも知れませんが、写真という世界は本当に奥が深く、これからも勉強していくことしかありません。
とりわけ営業写真となりますと、まずお客様あっての撮影になります。撮影の際はいかに自己満足にならず、いかに喜んでいただけるか、また、その中でどのように「自分らしい写真」という部分を入れ込んでいくのか、そもそも「自分らしい写真」とは一体何なのか。
そういった自問自答の日々の中で、今回富士フイルム営業写真コンテストで、しかも、銀賞をいただけたということは自分の中でひとつ、とても大きな自信にすることができました。自分のやっていることは間違いではないんだと言っていただけた気がして、本当にうれしかったです。
これから、今回いただいたこの自信を励みに、決して過信することなく、また、過去の栄光にするのではなく再び授賞式に呼んでいただけるよう、日々の撮影に取り組んでまいりたいと思います。
このたびは本当にありがとうございました。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック㈱　九州生産グループ）

銀賞

「温もりの記憶」　西田朋之　にしだ写真館（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　50㎜　F16.3　1/320　自然光

■選評

恐らくお父さんの経営する職場だと思います。一般的に「何故そこで撮影したのか」気になる写真が多いなかで、この写真ではロケーション撮影の意味がしっかりと表現されています。顔の寄せ方等、人物構成力も素晴らしく、半逆光で髪や顔に当たる光も最適、そして全員の表情も良く、家族のストーリーや温もりを感じさせます。場所の選定について、ここを選んだのは偶然ではなく、カメラマンとこのご家族が普段からの付き合いがあってのことだと思います。地域の写真館としてお客様との繋がりを大切にする作者の姿勢が反映された優れた作品と言えます。

■喜びの声

夢の帝国！それも銀賞なんて…驚きと喜びとともに栄誉ある賞をいただけたことに心から感謝いたします。
12年前、長女誕生がきっかけとなり『子供たちに自然な家族の写真を残してあげたい！』という思いから「君と歩むみち―ほんわか家族写真展」を始めました。
ご参加いただくお客様のご要望に耳を傾けながら毎年撮影していく中で、その場の環境や天候が影響するロケーション撮影の経験を積みました。今では、与えられた環境をフルに生かしながらご家族の時間をプロデュースする事に楽しみを感じています。
今回の素敵なU様ファミリーのこの瞬間に出会えたのも、この写真展を長年ご支持いただいてきたお客様と育んできた経験を一枚に集約できた結果だと思います。
また、生き方の指針をいただいた小崎先生、FF会の諸先輩方、福森先生。切磋琢磨するPGCの仲間、福岡県写真文化協会の皆様。情熱写真塾内倉主宰・メンバーの皆様、小崎修平塾長・メンバーの皆様。いつも美しいプリントに仕上げていただきます富士フイルムイメージングシステムズ福岡営業所の皆様。そして、U様ご家族に心より感謝申し上げます。
最後に僕の大切な両親、子供達、妻の照代。
いつも支えてもらっているスタッフに心からありがとう！そしてこれからもよろしくね！！
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック㈱　九州生産グループ）

銅賞

「雅」　齋藤 明　㈱スタジオ・サイトー（山形）

データ：デジタル一眼レフ　70㎜-200㎜　F3.5　1/250　自然光

■選評

打ち掛けのロケーション撮影ですが、和のイメージを強調しながら花嫁の喜びがストレートに伝わってくる写真です。花嫁の上の木の葉、左側の緑、それと背景の金屏風で奥行き感を出して花嫁を引き立たせています。画面の構成としても安定感があり、落ち着きのある構図のなかで和装の美しさを描写しています。また、型付けもバランス良くしっかりと作り上げていますし、自然光オンリーの光も綺麗です。ここに来れば、空気感を含めてこうした写真が撮れることが予め分かっていての撮影だと思います。その意味では、地域密着型の写真館ならではのロケーション撮影と言えます。

■喜びの声

権威ある富士フイルム営業写真コンテストで銅賞をいただき、誠にありがとうございます。
これもひとえに支えてくれるお客様はじめ、家族やスタッフ、いつも素晴らしいプリントで応えてくれるフジカラープロフォトセンター皆様のおかげと感謝いたします。
つくづく思うことは、このような恵まれた環境の中で撮影させていただける幸せに改めて気づき、感謝の気持ちで満たされているということです。
今回の写真は、近年当方のスタジオで特に力を入れているブライダルロケーションです。撮影場所はお二人の指定された場所での出張でしたが、背景の金屏風をポイントに、花嫁さんの優しいお人柄や、世界一の民族衣装である打ち掛けが映えるように、しっとりと品格ある撮影を心がけました。
太陽光の状態も薄曇りで柔らかく、空気感漂うイメージ通りの写真になったと思います。
これからも、お客様のニーズに応えながらも、自分なりの営業写真を目指して精進してまいります。
最後になりますが、志を同じく切磋琢磨しております六花塾、東北FAX会、諸先輩皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。
（制作ラボ：㈱フジカラープロフォトセンター）

銅賞

「研磨師」　宮澤泰也　㈲宮沢写真館（長野）

データ：デジタル一眼レフ　58㎜　F1.6　1/80　タングステン・自然光

■選評

研磨師としての表現に特化して撮られた重厚で品格のある写真です。職人としての真剣な眼差しとポーズを、メリハリのあるライティングで表現しています。自然光とタングステン光のミックス光ですが、光の方向性が統一され、違和感なく自然な光を作り出しているところに作者の高い技量が感じられます。また、刀の光が破綻なく綺麗に表現されていることも、光をコントロールする技術に長けているからこそできたことだと思います。さらに、画面下の道具に当てられた光と、刀の光、そして右の黄色とで上手く光のバランスを取っていることも画面構成上、大きな効果を出しています。

■喜びの声

昨年に続いて栄えある銅賞をいただき、心より感謝申し上げます。
思い起こせば父母の急逝により32歳で銀行を脱サラして、カメラさえ持ったことがない私がこの世界に飛び込んで27年が経ちました。家族に幾多の苦労をかけながらも、多くの方々との出会いにも助けられ、おかげさまで今年で18年連続入賞も達成してお客様とも喜びを分かち合っております。
このたびの受賞作品の刀剣研磨師熊井氏は、厳しい修行を経て全国コンクールで最高特賞も受賞されている地元の名士ですが、普段は温厚な彼がひとたび細工場（作業場）に入ると表情が一変します。彼の職人魂、鋭い眼光と動き、ピリっとした緊張感漂う雰囲気をも写真の中で表現できたのではないかと、自負しております。
写真は誠に奥深く、そのたびに壁にぶち当たり悩みはつきませんが、今後も常に謙虚さは忘れずに、社会に、お客様に、この業界に、スタッフに、そして家族に感謝しながら写真作りに励みたいと思っております。
最後にサークル「風」の柴田代表をはじめとする諸先輩方、同輩、高い志をもつ全国の仲間達、そして素晴らしいプリントに仕上げてくださるアートカラーラボの皆様に感謝しつつ、この場をお借りして心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。
（制作ラボ：㈱アートカラーラボ）

銅賞

「マイ・ルーツ」　木田陽子　㈲宮田写真舘（愛知）

データ：デジタル一眼レフ　ストロボ・蛍光灯　アルバム

■選評

成人式の写真集ですが、そのなかにストーリー性を持たせて表現している作品です。多ページではありませんが、成人式写真を中心に据えながらも、家業を継いだという物語も追加されています。１枚でそれを表現するのは難しく、これは写真集でしかできない表現と言え、作者の着眼点が素晴らしいと言えます。成人式写真の他、仕事着での家族写真、仕事をしている風景などが織り込まれ、そしてそれら１枚１枚のクオリティーも高く、見ていて引き込まれていくような力があります。地域の写真館だからこそできるものと言え、新しい写真集の提案の一つだと言えるでしょう。

■喜びの声

扉を開けると「いらっしゃい」という威勢のいい声が飛び交います。実に気持ちのいい出迎え、私は好魚門さんのファンです。悠太君が小さな頃ご両親が開業されたお寿司屋さん、日々お忙しく、そこにはご家族の思い出がたくさん詰まっていることでしょう。
この受賞はお客様と一緒にいただいた、最高にうれしい団体メダルです。ありがとうございます。
悠太君のご成人の予約をいただいた時に是非、「お店の仕事着で写しましょう」とご提案させていただきました。悠太君のお人柄そして、ご家族の楽しい雰囲気、親子で仕事一筋、真摯なお姿が表現できればとアルバムをお作りいたしました。
写真を通して数えきれないお客様、先生、先輩、一緒に喜んでくれた友人、メーカー商社の皆様との出逢いがあり、いつも支えてくれる家族、スタッフに守られ、今の私があります。
「いつもいつもありがとうございます。こんな私ですが、これからもよろしくお願いいたします。」 感謝の気持ち、皆様に届きますように。
アルバムを制作するにあたり、いろいろとわがままを聞いてくださったプロカラーラボの皆様に心より感謝申し上げます。 富士フイルムイメージングシステムズの皆様へ、最高の親孝行ができました、ありがとうございます。
東北に続き、熊本、大勢の方が被災されました。1日も早い復興を心より願っております。写真には「皆を元気にしてくれる」力があります。だから明日も私は写真を写します。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

銅賞

「Happy Friend」　川地清広　㈲写真の川地（三重）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F4.5　1/250　ストロボ

■選評

題名のとおり、友達と一緒に撮影したブライダル写真ですが、花嫁の幸せ感と、それを共有する友達との関係を見事に描写した優れた作品です。鏡に映った花嫁にピントを合わせながら光を当てて、そして周りを落として主役を強調しています。周りの友達は笑顔のお嬢さんが鏡のなかに１人、こちら向きに３人配置していますが、こうしたシチュエーションを作り上げた作者の発想力が素晴らしいといえます。おそらく、狭い空間だと思いますが、その場所でこうした環境を作り出し、しかも１人１人すべてに意識が行きわたっていますが、これは一朝一夕にできることではなく、作者の熟練の力量が感じられます。

■喜びの声

昨年は、卒業アルバムの個人写真で銀賞をいただき（プレミアム卒アル個人写真）、今回ブライダルで銅賞と続きありがとうございます。ブライダルで賞をいただくのは初めてかと思いますのでとてもうれしいです。
この写真はお付き合いをさせていただいている式場のホームページ用写真の撮影依頼の中の一コマです。
モデルさんが、外国の人たちばかりで、最初にイメージしたのは、30年ぐらい前に憧れていたデビット・ハミルトンの写真を思い付きました。そして言葉に戸惑いを感じました。通訳を通じて、こうしてほしいとお願いするのにとても苦労しました。とにかく私が喋るのは smile smile ばかりですから。一番大切にしたかったのは、主役の彼女にメインの光をあてることでした、鏡に映るので逆になることを考えなければいけませんから。それと、みんなの顔が見えるようにすることでした。まずまずの出来栄えかなと思います。
式場さんも、大変喜んでいただきました。
フィルム時代から、デジタル時代になりフィルム時代には、できなかった覆い焼き、焼き込みができるようになり一枚の写真を仕上げることができて、楽しく仕事をさせていただいています。
何時も何時も、素晴らしいプリントをしていただいている、富士フイルムイメージングの皆さんにも、感謝いたします。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック㈱）

銅賞

「晴れの日」　亀田俊太郎　フジノ写真館 studio Fourth（和歌山）

データ：デジタル一眼レフ　F7.1　1/200　ストロボ

■選評

個性的でお洒落な成人式写真です。一般的に笑顔の写真が多いなかで、この写真では敢えて笑わずに、このお嬢さんの、今の魅力をそのまま表現しています。そのポイントは目にあり、ショールの白がアクセントとなり、自然に顔や目に視線が行くように誘導しています。画面構成上、光の中心を真ん中に持ってきて、人物そのものはセンターを外していることも計算されているもので、その変化が「個性」を演出しています。背景も無地ではなく、オリジナリティーあふれるバックを使用していることもお洒落な雰囲気を醸し出しています。

■喜びの声

このたびは、栄誉ある富士フイルム営業写真コンテストの銅賞をいただき、ありがとうございます。フジノ写真館としては、４代目として世代交代し、４年前に店舗移転をしてからは遠方のお客様も増え、うれしさの反面、時折、自分だけ当スタジオだけの満足になってはいないかと自問することもありました。そんな中で、今回の自分らしい写真での受賞はうれしさと同時に、今後も賞に恥じない写真を撮り続けようと身の引き締まる思いでいっぱいとなりました。お客様や修業時代にお世話になった河原條秀紀先生、プロカラーラボ様他たくさんの方々のおかげでの受賞です。感謝しています。
この写真は、アルバム撮影の中のワンカットです。二十歳の美しさとファーの柔らかさ、そしてクールなイメージをプラスしようと、横からだけの一灯ライティングとレフ板のみで撮影しました。
当スタジオは、基本を大切にした写真に加え「その人らしさ」を大切にしています。
今後も十人十色のお客様、一人ひとりに大満足していただけるよう、写真を撮影し日々技術の向上とよりよい店作りに努めていきたいと思っています。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

銅賞

表紙

1

2

3

4

5

6

「いっちゃん☆入学」　登里直樹　ちどり写真館（兵庫）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F4　1/500　自然光

アルバム

■選評

６ページのなかにお子さんの可愛らしさ、記録、成長をまとめた写真集です。単純に卒園・入学のポーズ集ではなく、幼稚園での制作物や、普段の生活まで、スタジオでありながらそれらすべてを凝縮して表現しています。構成力の巧みさもありますが、表情の誘導、家族の雰囲気描写、そしてメッセージも入れたアイデア満載の写真集になっており「お客様に喜んでもらおう」という作者の意識が強く感じられます。このお子さんにとっては「宝もの」になると思いますし、時間の経過とともにより価値あるアルバムになっていくと思います。

■喜びの声

このたびは、栄えある『銅賞』をいただき、誠にありがとうございます！
ちどり写真館は、『ちどりファミリー』という、とっても大切な人たちに支えられ、育てていただきました。
受賞したこのアルバムは、ちどり写真館の【普段のまんま】のアルバムであり、『ちどりファミリー』と一緒だからこそ創れる、自慢のアルバムです。
今回は、ちどりファミリーの代表として、川野ファミリーと一緒に銅賞を受賞できたことは、すごく光栄であり、本当にうれしいです！
評価をいただけることは、頑張れる励みになります！
共に切磋琢磨できる仲間たち。いつもサポートしてくれるメーカーさん。
安心と信頼のプリントを提供してくれるプロカラーさん。
本当に、たくさんのみなさまのおかげで、毎日、頑張れることに感謝です！
これからも、大好きな『ちどりファミリー』と共に、楽しく、一生懸命、夢に向かって頑張っていきたいと思います！！
本当にありがとうございました！
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

銅賞

「絆」　下川高広　冨士スタジオ（広島）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜　F11　1/250　ストロボ

■選評

統一感があってチームワークを感じさせる優れたグループ写真です。下からのカメラアングルで「希望」を感じさせるカメラワーク、全員に均等に光を当てたライトバランス、構図ともに完成度の高い写真に仕上げられています。着ているユニフォームも赤で映えていますし、周りを落とすことで人物を引き立たせています。また、背景のバスケットゴール、その横の横断幕もバランス良く描写され、この写真の表現意図がストレートに伝わってきます。学校写真だと思いますが、卒業アルバムに入れる１枚１枚は非常に大切で、この写真のように作品まで仕上げる意識を持つことも大切だと思います。

■喜びの声

銅賞というしらせが届いたとき、驚きとうれしさの反面、実感が湧きませんでしたが、時間が経つにつれその重みを感じているところです。
この写真ですが、クラブの引退と中学卒業の記念で撮影してほしいと私の長男と同級のお母さんから依頼を受け撮影した中の1枚です。
思い出してみると、小学校でのミニバスに始まり中学引退までの間、いろんな大会でぶつかり合い、互いに意識しあうチームでした。残念ながら地区の秋季大会では、準決勝でこの子たちに競り負けてしまい、春に続いての県大会出場は逃してしまいましたが、両チームとも力を出し切ったいい試合でした。
まだまだ書き切れませんが、そういったバックグラウンドがあり、私自身特別な思いを持っての撮影で、特にこの1枚は、最後に私の思う写真を撮らせてほしいとお願いして撮らせていただいたものです。
そして、この賞を一番にお知らせしたのが、中村成一写真事務所の中村成一さんです。中村さんは資生堂宣伝部で勤務していた時に写真のいろはを私に教えてくださった方です。細部まで決して妥協を許さず、被写体に真摯な姿勢で取り組む姿をそばで見ながら、一緒に撮影していたことが今の私の原型となっています。あの時のがむしゃらに撮影していた時期があったからこそ今がある訳で、中村さんそして資生堂宣伝部には感謝の気持ちでいっぱいです。
最後になりましたが、受けた恩は返すだけではなく、送られた方が別の方に送り、その方がさらに別の方へという「恩送り」という幸せの連鎖を、写真を通じて広げていける一翼を担うことができたら思います。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

銅賞

「Bridal」　荒木敬介　はこざき写真館（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　F5.6　1/80　ストロボ

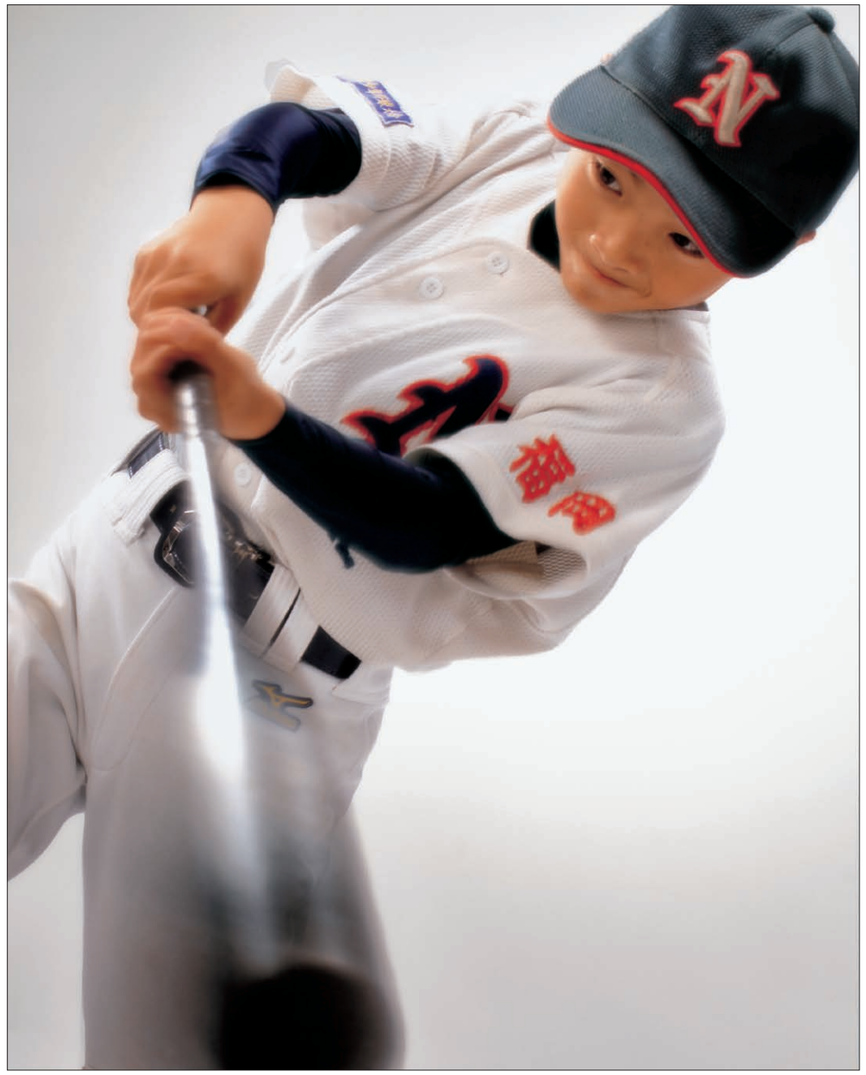
■選評

独特なお二人の雰囲気をしっかりと取り込んで幸せ感を感じさせる婚礼写真です。個性的なコスチュームの新郎さんの手の仕草、傾き、それに寄り添う花嫁の所作も綺麗で、計算した上でお二人の喜びを表現しています。故意に開けた右側の空間も、敢えて不安定要素を取り入れて被写体に目が行くように仕向けられており、またライティングも全体に当たっているわけではなく、花嫁さんを中心にハイライトが来るようにするなど、随所にカメラマンの配慮が感じられます。背景を中間調のグレーで表現しているところも、ブライダル写真の新しいスタイルを感じます。

■喜びの声

このたびは、栄誉ある銅賞をいただきましたこと誠にありがとうございます。久々の上位入賞にすごく感動しております。
私は特に写真勉強会などに属していませんので、この富士フイルム営業写真コンテストが学びの場であり、自分の写真の方向性を確認する指針となっています。
この写真は、4～5年前より婚礼の仕事に携わり始め、婚礼プランナーから新規事業として「こだわりフォトプラン」の要請があり撮り始めた写真のひとつです。
ガーリーやスタイリッシュなど聞き慣れない撮影技法を言葉の意味から勉強し始めて、自分なりに研究した写真が受賞したことにとても勇気をいただきました。動きの中にも品を大切にすることを心がけております。
若い方々が新しい感性で頑張っていることがとても刺激になり、私もまだまだ頑張っていこうと思う今日この頃です。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ九州ラボ）

銅賞



「フルスイング」　中野 剛　㈲もとまつ写真場（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　50㎜　F5.6　1/125　ストロボ

■選評

野球を題材とした写真はよく見かけますが、これほどインパクトのある写真はなかなかありません。スタジオのなかでフルスイングはできないものですが、敢えてフルスイングしてもらってそれを効果的にブレで表現し、しかも迫力という観点からか、相当近距離で撮られています。また、斜めのフレーミング、トリミングも素晴らしく、そのなかでバットの動き、腕の振り、真剣な目線等、狭いなかでこれだけ多くの要素を表現しているカメラマンの、確かな目が感じられます。本格的にスイングするイメージがそのまま伝わってくるプロならではの写真と言えます。

■喜びの声

毎年富士フイルム営業写真コンテストに応募しては、帝国ホテルに行きたい！と願っていました。が、実際に受賞の知らせを聞いた時はまさか自分が？夢なんじゃないかと信じられませんでした。しかし周りの皆様からのおめでとうの声で、だんだんと実感でき本当にうれしく思いましたし、家族みんなで大興奮でした。本当にありがとうございます。
この銅賞という素晴らしい賞をいただけたのも、重岡冨美雄社長をはじめもとまつ写真場のみんなとお店に来てくださるお客様の力があったからこそだと思います。
そして私にはたくさんの先輩方がいます。九州の先輩方は優しくて熱い方ばかりです。
なかでも、いつも勉強させていただいている「修平塾」の塾長である、小﨑修平さんには感謝してもしきれません。修平さんには撮影のための技術だけではなく、心も鍛えてもらっています。この熱い指導があってこその結果だと思っています。
技術も心もまだまだの私ですが、これからもお客様が大満足できる一枚を目指し、足を止めることなく自分を信じてシャッターをきっていきたいと思います。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック㈱　九州生産グループ）

銅賞

「ファミリー」　安部宣秀　安部写真館（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　28㎜-70㎜　ストロボ

■選評

家族の幸せ感が伝わってくる微笑ましい家族写真です。四角い画面のなかで、お父さんとお子さんの表現が完成されていて、そこにお母さんが「私も入れてー」というような笑い声も聞こえてきそうな心温まる写真です。お母さんのオーバーアクションが気になりましたが、実はそこがこの写真のポイントになっていると思います。全体の構図、周りの落ち方、ライティングも完成されており、プラス全員の笑顔でこの家族の「輪」を表現しているところに、カメラマンの豊かな感性が感じられます。家族写真のお手本になるようなクオリティーの高い作品です。

■喜びの声

このたびは、名誉ある銅賞をいただき、誠にありがとうございます。４年ぶりの上位入賞で、大変うれしく思います。今回の受賞作品は、１歳記念の『家族の思い』を撮影させていただいた１枚です。楽しい雰囲気の中お姉ちゃんとママがのってくれて、パパや妹さんの笑顔も撮影することができました。
実はこのご家族、４年前に受賞した銀賞作品のお客様の紹介で、当店をご利用いただくようになったご家族だったので、通知が届いた時は、とってもびっくりしました。
私事ですが、今年50歳になります。この年になって、やっと、お客様からの『信用・信頼』を得られてきたんじゃないかな…と思います。ある程度の年月・経験・実績を積み上げて…。でも失うのは一瞬です！
これからも、この銅賞をいただいたことに、驕ることなく、力まず、自分らしく、頑張っていこうと思います。
最後になりますが、安部写真館を支えてくださっているお客様、いつもお世話になっている先生方、先輩方、仲間達、最高のプリントをしてくれる富士フイルム、そして家族に深く感謝しております。本当にありがとうございました。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングプロテック㈱　九州生産グループ）

審査員特別賞

「さくらさくらさくら」　小町剛廣　スタジオモーツァルト（東京）

データ：デジタル一眼レフ　F10　1/160　ストロボ　アルバム

■選評

マタニティー写真から始まり、お子さんの誕生、そして６～７歳ぐらいまでを撮り続けた44ページの写真集です。１枚１枚をモノクロでシンプルに表現して統一感を出し、そのクオリティーも高く、お子さんの魅力を最大限に引き出しています。写真館のなかで、毎年１枚ずつ撮っていくというのはありますが、それを時間と労力をかけながら、こうした形でまとめようとする発想は聞いたことがありません。カメラマンの豊かな感性と発想力には驚かされます。お客様とのコミュニケーションがしっかり取れているからこそ完成した写真集と言え、地域密着写真館での好例と言えます。

■喜びの声

一般の方々へ向けたサービスとしてマタニティーフォト専門のスタジオを設立して8年目になります。
今までに3000人以上の妊婦さんを撮影させていただいてきました。
中には予定日より早く、撮影した翌日に生まれるなんてことも多々ありました。
また撮影日の前日に急に出産なんてこともあり、なんとか撮影できませんか？と相談をうけるものの、こればかりはどうすることもできないので・・・・
マタニティーフォトを撮影する上で私が最も大切にしているのは撮影した写真から赤ちゃんが感じられるかどうかです。
(もちろん、妊婦さんのお腹のフォルム、神々しさ・・・・なども踏まえた上でですが)
どんな時に赤ちゃんが感じられるかというと妊婦さんが瞬間、ママの顔になったりするときがあります。
この瞬間が私の中のシャッターチャンスです。
それは自分と赤ちゃんの二人の生命体を包んでいる身体から強い母性が輝き放たれる瞬間でもあります。またご夫婦で撮影するマタニティーフォトはさらに赤ちゃんが強く感じられることが多いです。
このようにしてマタニティーフォトを撮影しますが、ここからが私のねらいであるヒストリーフォトの始まりです。
毎年1年に一回というスパンの中で、どう子供の成長ぶりを・・・親子の熟成ぶりを表現していくかが大切だと思っています。その際、迷ったら生まれる前のマタニティーフォトを必ず見直しています。何故ならば必ず、そこにヒントがあるからです。
私にとってのヒストリー・ファミリーフォトは生まれる前からが重要なキーワードでもあります。
（制作ラボ：㈱ラボネットワーク）

優秀賞

「カフェでお茶しましょうか」
堤 賢一　日本橋高島屋写真館（東京）

データ：デジタル一眼レフ　70㎜-200㎜　F4　1/60
ストロボ

「KANREKI」中野修平　中野写真館（神奈川）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F4.5　1/125　ストロボ

「Overflowing with a smile」岡﨑卓郎　写真工房フォトデポ（滋賀）

データ：デジタル一眼レフ　アルバム

「ピ～っ」藤井孝幸　㈲I WILL 土居写場（広島）

データ：デジタル一眼レフ　70㎜-200㎜　F2.8
1/1000　自然光

「日々好日」湯本一生　ユモトカラースタジオ（徳島）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-105㎜　F8　1/125　自然光

「青春」湯本和子　ユモトカラースタジオ（徳島）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜　F8.0　1/60
ストロボ

「ぎゅぎゅぅ～」上野優子　上野写真館（徳島）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-105㎜　F5.6　1/125　ストロボ

優秀賞

「四国中央市消防団川之江分団」篠原裕和　㈲光洋社（愛媛）

データ：デジタル一眼レフ　24㎜-70㎜ 70㎜使用　F11　1/125　自然光・ストロボ

「ゆいちゃんの七五三」中野博隆　中野スタジオ（佐賀）

データ：デジタル一眼レフ　28㎜-70㎜　F6.3　1/60
ストロボ

「雅 -grace」木村 優　㈱木村写真本館（大分）

データ：デジタル一眼レフ　85㎜　F1.4　1/200
ストロボ

テーマ賞　大人ポートレート写真

「出発」
松田高明　松田スタジオ（山形）

「筋肉」
寺田太三　新宿伊勢丹写真室（東京）

「赤いチーフ」
髙橋金治　フォトスタジオK（埼玉）

「七年の眠りから目醒めた大獅子」
佐々木 滋　㈲佐々木写真館（長野）

「フォークダンス」
萬谷 純　㈱光潮社 伊勢丹写真室 松戸店（千葉）

テーマ賞 大人ポートレート写真

「軌跡」

吉川信吾　やまざき写真館（鹿児島）

「まゆさん」

富川哲　富川スタジオ（愛知）

「結婚の記念に」

内田綱子　あさひフォトスタジオ（奈良）

「まっすぐあなたを」

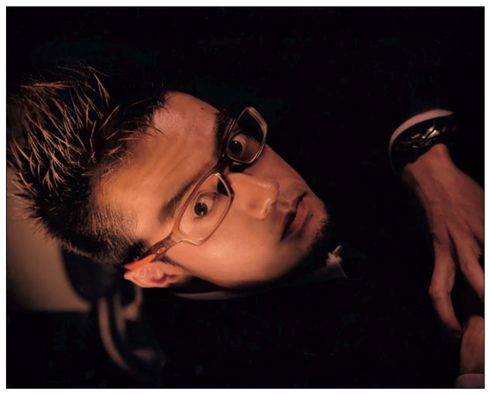
中川憲業　Studio View（兵庫）

「学生時代の親友たちと」

大塚雅晴　㈱いぬづか写真室（兵庫）

「自我」

藤島庸晃　写真の和田（山口）



「ある女性の肖像」

廣田庸二　㈱ヤヨイ写真館（愛媛）

「指揮者」

飯田享人　㈱片山写真館（福岡）

「明奈さん」

中村一昭　㈲アミューズ（広島）

「憩い」

篠原隆浩　㈱ヤヨイ写真館（愛媛）

大人ポートレート写真

「REAL」

原田大一　原田写真館（福岡）

「音楽家」

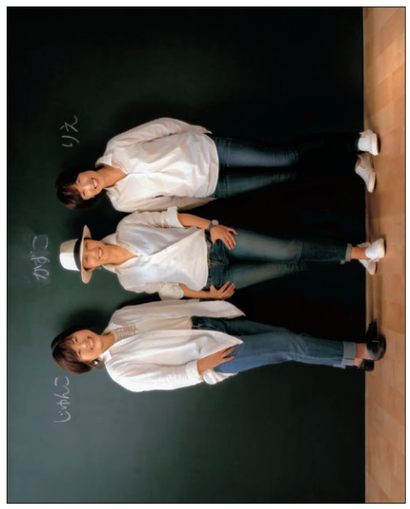
明石一矢　フォトスタジオ Vitamin（福岡）

「セルゲイ爺様」

鶴田一雄　㈱杉田写真館（福岡）

「half century anniversary」

重岡隼人　もとまつ写真塾（福岡）



「傳の想い」

吉岡功道　吉岡写真館（佐賀）

「刈安教授」

内倉たけお　㈲内倉写真館（宮崎）

「I氏のばあちゃん」

橋爪正憲　めぐみ写真館（鹿児島）

「クール・ビューティー」

東 慶国　ヒガシ写真塾（熊本）

「K氏の肖像」

染矢博幸　写真のそめや（大分）

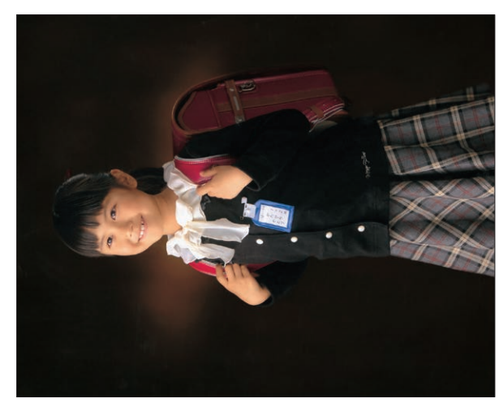
テーマ賞　入卒園・入卒学・七五三写真

「お宮の前で」

須藤一朗　ストウ写真館（青森）

「あやまつくんの七五三」

渋谷知宏　シブヤスタジオ（秋田）



「入学」

三浦宣平　㈲みうら写真スタジオ（宮城）

「お兄ちゃんと」

渡辺昌彦　㈲ワタナベ写真館（福島）

「わたしの七五三」

根本昌幸　㈱小倉写真館 パセオスエボつくば（茨城）

「ユズハちゃんの七五三」

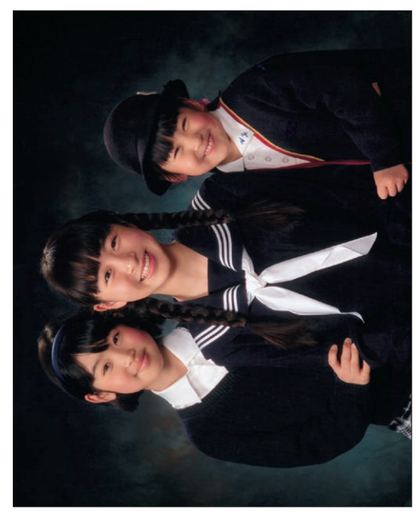
まるやま耕司　㈲丸山写真館（長野）

「大好きなお兄ちゃんと」

菅野太一郎　菅野写真館（神奈川）

「青春時代」

高野　純　一の宮写真館（神奈川）



「卒業の日のお姉ちゃんと」

石手宏二　ハートフルスタジオ ふれあい写真（千葉）

「祝一七五三」

吉兼弘哲　㈲吉兼写真館（東京）

テーマ賞 入卒園・入卒学・七五三写真

「家族揃って」
下宮伸一　shimomiya photo office（長野）

「卒業の想い」
佐々木宏和　アトリエささき（愛知）

「今日から高校生」
大西邦夫　㈲スタジオ・クニ（愛知）

「おとーちゃん、おかーちゃん、いつもおおきに。」
河野剛氏　㈱リバーズ（滋賀）

「かわいくとってね！」
赤井大司　あかい写真館（和歌山）

「ゆうや君」
上原登茂子　上原フォトスタジオ（滋賀）

「兄弟」
大西佐智子　スタジオビュー（兵庫）

「桜の季節」
安達亮　㈲I WILL 土居写場（広島）

「一緒に入園・入学」
野口真　野口写真館（徳島）

テーマ賞 入卒園・入卒学・七五三写真

「卒業しても友達」
馬場昭夫　フォトスタジオ ババ（徳島）

「卒業記念」
松尾勝彦　写真の松屋（福岡）

「ご入学記念」
多々良竜　K-ya 写真工房（福岡）

「カッコいいポーズで」
内田尚吾　㈲ウチダ写真館（大分）

テーマ賞 子供ポートレート写真

「ハルチャン風ニ乗ル」
福田鎌一郎　㈲福田写真館（北海道）

「お兄ちゃんとおいかけっこ」
原一友　㈱原スタジオ（北海道）

「1才祝いに」
千葉浩道　㈲千葉スタジオ（北海道）

「落ち葉遊び」
藤田淳　フジタスタジオ（北海道）

「はるとくんのハーフバースデイ」
池田伸寿　池田スタジオ（秋田）

テーマ賞 子供ポートレート写真

「奴の仲間たち」
三澤光年　㈲三沢写真館（山形）

「かわいいでしょ」
佐直和春　㈲佐直写真館（山形）

「小さな格闘家」
渡辺由佳　㈱田村写真館（栃木）

「無邪気さ」
松村賢浩　まつむらフォトスタジオ（神奈川）

「兄妹の時間」
岩崎利彦　岩崎写真館（山梨）

「私のボーイスカウト」
笠松丈夫　元禄スタジオ（福井）

「野球三兄弟」
藤井満生　藤井写真館（静岡）

「ちょっぴり大人気分」
松山真彦　松山写真㈱（静岡）

「大好きなうさぎさんと一緒に」
田内光裕　㈲清水写真館（静岡）

「AMIちゃん」
大西真人　㈲スタジオ・クニ（愛知）

テーマ賞 子供ポートレート写真

「笑顔」

阿部 学　あべ写真館（岡山）

「書道部 部長」

平岡義弘　㈲平岡写真館（広島）

「まなざし」

村田典映　㈱杉田写真館（福岡）

「いっしょに一緒に」

野田エイタロウ　小さな写真館ＡＢＣスタジオ（福岡）

「青春の１ページ」

うえの みき　㈲うえのスタジオ 佐世保店（長崎）

「僕達若鮎四人組」

佐々木克明　㈲佐々木写真館（大分）

「『チーちゃん』」

吉田茂隆　吉田茂隆写真館（宮崎）

「なかよし」

田中克慶　㈲田中写真館（鹿児島）

「けんけん！」

塩屋大輔　写真のシオヤ（鹿児島）

「我が家のアイドル」

松本宗樹　㈲松本写真館（栃木）

「内山家の夏!!」

岡村 匡　岡村写真工房セピア（北海道）

「漫画記念」

佐久間 剛　小倉写真館パセオスエボ水戸（茨城）

「Happy Halloween!」

岡部貴彦　㈱岡部写真館（宮城）

「ありがとう」

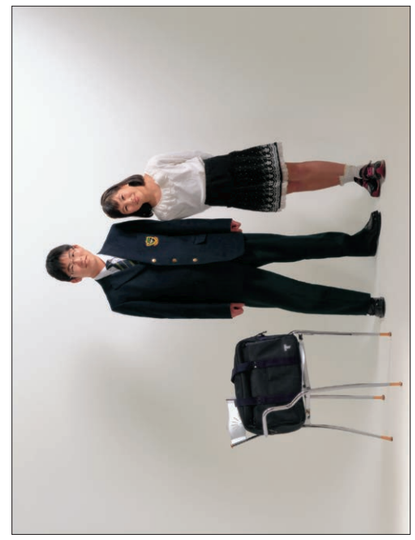
高村正彦　高村正彦写真館（宮城）

「家族のひとときを」

滝 篤史　㈲写真館かつみ（愛知）

「お兄ちゃんと撮りたかった!」

清田知子　㈲セイタ写真館（神奈川）



「二度目のプロポーズ」

松尾浩嗣　㈱田村写真館（栃木）

「夏の日に」

清田留勝　㈲セイタ写真館（神奈川）

「今年は、兄弟対決も有りました。」

山口真澄　㈲山口写真（埼玉）

「年に一度の家族写真」
林 隆昌　㈲スタジオイマージュ（岐阜）

「どこまでも二人で」
岸本茂樹　Kiimon（キーモン）（島根）

「パパとママです」
小山朋子　㈲小山写真館（香川）

「やった～！妹も同僚」
村上幸隆　村上スタジオ（福岡）

「家族の祝福」
因幡明弘　イナバフォトスタジオ（福岡）

「大好きだよ」
菊池剛史　あかま写真館（福岡）

「写真いいですか～？」
上野留美　㈲うえのスタジオ 佐世保店（長崎）

「今年の冬は、コレで決まりっ！」
小﨑修平　おざき写真館（福岡）

「月曜日からの私たち」
蓑田憲明　㈲フジ写真館（熊本）

アルバム

「Maternity Story」
内倉真一郎　㈲内倉写真館（宮崎）

テーマ賞 家族写真

「父さん 力持ち!!」

藏元博一　くらもと写真館（鹿児島）

「T夫婦」

児島大志郎　㈲児島写真館（鹿児島）

「マタニティー」

安田祐輝　MY LIFE STUDIO（鹿児島）

「想いはひとつ」

矢上敬一　矢上写真館 都城店（宮崎）

テーマ賞 婚礼・成人式写真

「着物ドレス」

和倉正幸　すたじおわくら（北海道）

「成人」

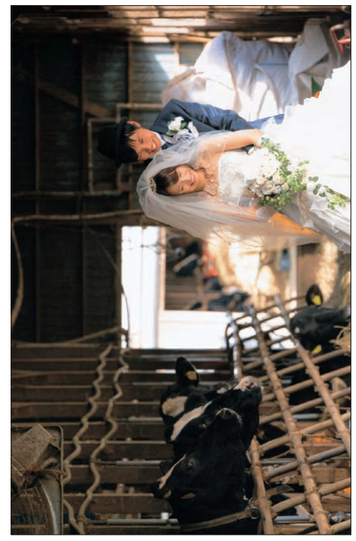
蛯名清悟　エビナスタジオ（青森）

「麗」

ヤナセ セイジロー　ヤナセ写真館（埼玉）

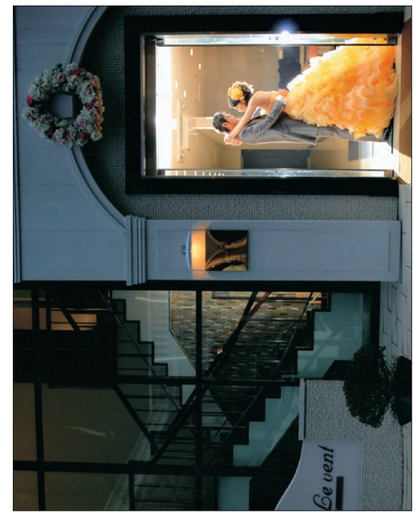
「おめでとう」

岡部圭一郎　VLESS photo studio（山形）



「二人だけの最高会」

齋藤友美　㈲エイトスタジオ（茨城）



テーマ賞 婚礼・成人式写真

「未来」
石澤 裕
シェラトン・グランデ・トーキョーベイホテル写真室
㈱佐藤写真（千葉）

「はたち」
堀 由貴子　ホリスタジオ（東京）

「二人」
村中 聡　伊勢丹写真室（東京）

「20」
根岸賢三　㈲ネギシスタジオ（富山）

アルバム

「夢 二十才」
平松治雄　スタジオホワイトルーム（東京）

「二十歳」
東畑達也　㈲トーハタ写真館（静岡）

「ハ・タ・チ」
松岡 博　青空写真館（兵庫）

「憧れのドレスで」
赤松逸朗　名古屋マリオットアソシアホテル写真室（愛知）

「この瞬間は永遠に」
柳谷紗希　㈱デコルテ studioTVB 神戸店（兵庫）

「Bride」
西重慎太郎　㈲ウエノ写真館（山口）

テーマ賞 婚礼・成人式写真

「Lot's of love…」
井上真琴　フォトアートブサルダダ（愛媛）

「華燭の舞」
廣田富治男　ひろた写真館（愛媛）

「雨宿りの楽しい時間」
石原美保　㈱美光写苑（熊本）

「20才」
末次克幸　吉井スタジオ（福岡）

「ウェディングドレス」
甲斐浩充　ぎおん写真スタジオ（宮崎）

「幸せのほほえみ」
中村賢治　㈲中村写真工房（鹿児島）

「成人」
田中厚太郎　㈱田中写真館（鹿児島）

「参道にて」
中島了一　神宮写真館（宮崎）

「20th Anniversary」
太田順二　すみれ写真館（佐賀）

2016 富士フイルム営業写真コンテスト
金賞作家を訪ねて……北海道　あさかぜ写真館　朝風 恵子さん

お客様に『宝物がまた一つ増えました』と言っていただき、喜んでもらえる写真を撮り続けたい

「金賞受賞の知らせを聞き、えっ金賞？まさか？信じられない……嬉しさよりも驚きが先行して、車の運転中だったのですが、どうやってスタジオまで帰ってきたか覚えていないほど、地に足がついていない状況でした」と振り返るのが、2016 富士フイルム営業写真コンテスト金賞作家・朝風恵子さん（北海道函館市・あさかぜ写真館）です。

朝風さんは、2006 年に初めて富士フイルム営業写真コンテストに応募し、いきなり優秀賞、その後もテーマ賞 6 回、2012 年には銀賞を受賞。この受賞歴をみても、その技術力の高さは実証済みで、今回の金賞受賞も偶然の産物ではないことが分かります。ただ、金賞に至るまでの道のりは決して平坦なものではなく、そこには朝風さんの写真に対する飽くなき探究心と向上心が根底にあって、それが金賞というかたちに結実したことが、今回の取材を通して分かったことです。

「仕方なく」でのスタート

さて、あさかぜ写真館は、朝風さんのお父様が60 年ほど前に創業し、40 年前に函館市の亀田八幡宮の敷地内に店舗を設立、平成元年に同じ敷地内で移転して現在に至っています。亀田八幡宮から声を掛けてもらうかたちでのオープンだったそうですが、当時は神社での結婚式が隆盛で、１日に７～８件の婚礼の撮影があるほどでした。店は奥様と朝風さんの妹さんがアシスタントで手伝っていたとのことです。当の朝風さんは、写真の道ではなく、医療関係の仕事に就いていましたが、20 年前にお父様が病気で倒れたことで、ご本人いわく「仕方なく」店を継ぐかたちになったそうです。幼少の頃からお父様の背中を見てきたわけですが、写真の世界は全く分からず、まさにゼロからのスタートとなったのです。

当初のエピソードとして、こんな話があります。自分の撮った写真に対して「これではお客様からお金をもらえない」と思っていたところ、お父様がそのお客様の家に一緒に行ってくれて謝ってくれたそうです。当のお客様は満足する写真だったのですが、朝風さんにとっては、どうしても満足できない写真だったわけで「良い写真」に対するこだわりをもっていました。また、お客様から「イメージした写真と違う」というクレームの手紙をいただいたこともあったそうで、お客様に認めてもらえる写真を撮りたい、という思いが強くなっていきました。そのクレームの手紙は、今では朝風さんにとって、いい意味での「財産」となっています。

それから一念発起、まさに猪突猛進の勢いで勉強の日々が始まりました。まず、北海道営業写真家協会の大会での勉強会に参加したところ、先輩や仲間の真剣さに驚嘆。１枚の写真に対する熱い思いが伝わり、そうした周りの方々の真剣さが朝風さんの向上心をさらに増幅させていったのです。

朝風 恵子さん

勉強のために
片道７時間を２カ月に１度

その後、函館の地元で定期的な勉強会に参加。さらに、北見市の北海道営業写真家協会北見支部の方々との出会いがあり、その勉強会にも参加。なんと電車で片道７時間もかかるのを、２カ月に１度、欠かさず通ったそうです。北海道というのは、全国的に見て技術レベルが高いといえますが、そこには技術に対する向上心と「分からなければ助けてあげたい」という相互扶助の環境ができあがっているからだといえるでしょう。朝風さんもそんな風土のなか、技術を磨いていきました。

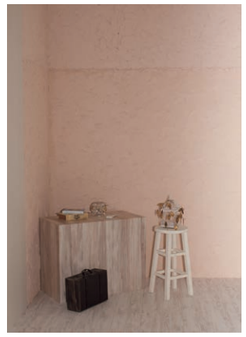
そして、2012 年には北海道だけではなくサークル「風」のなかの若手グループ「風雲の会」に入会しています。ご承知の方も多いと思いますがサークル「風」は、富士フイルム営業写真コンテストの金賞作家を数人出している、レベルの高いグループで「全国の著名な先生方の、独創的で素晴らしい作品の数々を目にすることができたり、また、営業写真に対する考え方を聞けることは、私にとってこれまでとは違った刺激になり、もっともっと勉強しなければ、という思いを強く持ちました」と朝風さん。

地域のお客様を大切に……ホームフォトグラファーを目指して

「うまくなりたい」という気持ちは、その根底に、お客様のどんな要望にも応えることができ、満足していただく写真を提供したいという意識が強くあるからそれが生まれてきます。あさかぜ写真館には、定期的に来ていただいているリピーターのご家族が約100 組ほどあり、そうしたご家族に満足、感動していただき、そして自分も納得するために研鑽を続けています。

地域のお客様を大切にするホームフォトグラファーを目指す朝風さんですが、一方でその地域愛はロケーションウエディングにも幅を広げています。函館には景勝地が豊富にあり、そこをバックにしたウエディングフォトを展開していて、北海道内はもとより、道外からも、さらには海外からのお客様もある人気メニューとなっています。年間で約50 組撮影しているそうです。函館の良さをアピールしながら、結果的に商売にも結びついているわけです。

亀田八幡宮の敷地内にあるあさかぜ写真館



スタジオのどこでも撮影できるように工夫

撮影のバリエーションということでは、勉強会のなかで先輩からアドバイスを受け、それまで敷きバックだけで撮影していたものを、スタジオ内のあらゆる場所が背景に使えるように改装し、バラエティーに富んだ撮影が行えるようになりました。さらに、スタジオから車で約20 分のところにある友人宅を借りての撮影もあります。そこはバーカウンターが置いてあるなど、生活感が感じられないお洒落な空間となっていて、主に大人のポートレート撮影に利用しています。

人気メニューのロケーションウエディング　函館の景勝地をバックに

こうした豊富な撮影バリエーションと、朝風さんがこれまで培ってきた技術力とで、その表現の幅はますます広がってきています。「お客様に『宝物がまた一つ増えました』と言っていただき、喜んでもらえる写真を撮り続けたいと思っています。そのためにも、お客様に順応できるようにこれからも先輩や仲間に力を借りながらも勉強を続けていきたいと思います。まだまだ、全然勉強不足ですので……」と語りました。金賞を受賞したという驕りは微塵も感じさせず、謙虚に、地道にこれからを歩んでいくという姿勢の朝風さん。その進化はまだまだ続いていきます。

プロならではの卓越した技術と感性を発揮

2016富士フイルム営業写真コンテスト表彰式、盛大に開催

富士フイルムイメージングシステムズ㈱は10月12日、東京・日比谷の帝国ホテルにて、2016富士フイルム営業写真コンテストの表彰式を、上位入賞者ならびに入賞作品制作ラボを招いて盛大に開催しました。

表彰式に先立ち、富士フイルム㈱の助野社長が挨拶に立ち「2016年富士フイルム営業写真コンテスト、上位入賞、誠におめでとうございます。日頃のたゆまぬご努力と、技術・感性の向上意欲の成果が、まさにここに表れたものと、心から敬意を表します。皆様のご支援のおかげをもちまして、富士フイルム営業写真コンテストは今年で53回目となります。今年も11,000点を超えるたくさんのご応募をいただきました。入賞作品を拝見し、改めて写真館の皆様は、大切なかけがえのない思い出作りのお仕事に携わっているのだと感じました。今年は、プラスアルファの工夫をした写真や女性写真家ならではのセンスのある写真も多く見受けられ、時代を引っ張る営業写真をつくりだしていこうとする熱い意欲が感じられました。写真館の皆様が、日頃のお仕事の中でお客様と向き合い、プロならではの卓越した技術と感性を発揮して撮影に取り組まれた成果であると感じます」と上位入賞者の努力に敬意を表しました。

また、写真の品質については「写真館の皆様のプロの技術にお応えすることができるのは、豊かな色調・階調の表現力、立体感、奥行き感、保存性など、私ども富士フイルムが長年培ってきた、高画質の銀塩によるプリントであると自負しております。今後とも富士フイルム製品をご愛顧いただきますようよろしくお願いいたします」と話しました。

さらに、富士フイルムとして写真の価値を伝える活動について「富士フイルムは1934年の創業以来『写真文化』の普及・発展に向けて取り組んでまいりました。写真として残し、写真の素晴らしさ、楽しさ、感動を伝えることで『写真文化』を守り育んでいくことは富士フイルムの使命であると考えています。写真として残す営業写真の文化を継承していくためにも、今後とも富士フイルム営業写真コンテストに応募いただき、盛り上げていただくようお願い申し上げると同時に、お客様と直接接する窓口の写真館様には、より多くの人々に感動と喜びを与え、いつまでもお客様に親しまれる写真を撮り続けていかれることをご期待申し上げまして、お祝いの挨拶とします」と締めくくりました。

この後、富士フイルムイメージングシステムズ㈱の西村社長が、コンテストの経過報告として「今回は全国の営業写真家の皆様3,458人の方々から、昨年とほぼ同数の11,157点のご応募をいただきました。厳正な審査の結果、金賞1名、銀賞5名、銅賞10名、審査員特別賞1名、優秀賞10名、テーマ賞119名、合計146名が入賞され、9月16日に発表いたしました。

今回は北海道のあさかぜ写真館・朝風恵子さんが女性写真家として5人目の金賞を受賞されました。第51回の堀由貴子さん以来2年ぶりの女性写真家の金賞受賞となります。全体としても女性写真家の応募が増えたことは大変歓迎されることです」と今回のコンテストの傾向について触れたのち、審査員による講評や出展傾向などについて報告しました。

この後「お客様が写真館に求めること、そして写真館の選び方も大きく変わってきています。その変わっていくお客様のニーズに対応しながらも、プロにしか撮れない、何十年も変わらない価値を持った写真を提供していくことが写真館と私どもメーカー・販社・ラボの使命であると思います。こうした写真をプロの意識をもって創り上げていくことがますます求められます。次回も意欲あふれた作品の応募を期待いたします。

来年以降ですが、この営業写真コンテストのスケジュールを2カ月ほど早めようと検討しております。皆様方のご商売の繁忙期になるべく掛からないような日程で企画してまいりますので奮ってのご応募をお願い申し上げます」と述べたのち、審査員の講評を紹介しました。

富士フイルム株式会社
代表取締役社長・COO
助野 健児

富士フイルム株式会社
イメージング事業部長
武冨 博信

富士フイルム イメージングシステムズ㈱
代表取締役社長・執行役員
西村 亨

写真を愛する多くの先輩、仲間たちとの出会いに感謝

この後、表彰式に移り、金賞の朝風恵子さん（北海道・あさかぜ写真館）をはじめ、上位入賞者17名と制作ラボに対して、助野社長から賞状、賞金、記念品が手渡されました。受賞者を代表して金賞の朝風さんは「地方の小さな写真館にとっては、全国規模のコンテストに参加することで、幾多の優れた写真を意識できること自体、本当にありがたいことだと思っています。このコンテストに応募すると、自分の浅い考えや技術が試されてしまいます。それを正すとなると、我流ではなかなかうまくいきません。やはり経験豊かな写真家のご指導が必要となります。さまざまなご縁に恵まれて、この4年間、サークル「風」、「風雲の会」の人々、柴田先生や丸山先生をはじめ諸先生、先達の方々、写真を愛する多くの先輩、仲間たちと出会うことができました。未熟者の私を叱咤激励してくださいます。この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。あさかぜ写真館は3年前に亡くなりました父が始めた写真館です。私は不肖の2代目となります。今日は父と一緒に写真館を切り盛りし、そして今も現役で店を支えてくれている母を連れてくることができました。亡き父も少しは喜んでくれていると思っています。営業写真館というのは、地域に根ざした一種のコミュニティースペースだと思っています。北海道生まれの北海道育ちが、地元の風土、人々の歴史を残せる写真館というのは、やっていて本当に幸せでありがたいことだと思っています。そして道産子としては、なんとしても言わなければならないことがあります。私が写真を始めた頃から、伊豆倉会長をはじめとする北海道営業写真家協会の方々、北海道写真館連合会の方々、ありがとうございます。また、長きにわたり写真プリントを引き受けていただいている小樽写真販売の山本社長、本当にありがとうございます。そしてたくさんの友人にも感謝したいと思います」と挨拶しました。

金賞の喜びを語る朝風さん

この後、全員での記念写真撮影、そして受賞パーティーが開催されました。冒頭に富士フイルム㈱の武冨イメージング事業部長が「上位入賞、誠におめでとうございます。日頃の皆さんのご精進の成果が見事に結実したと実感しています。改めて皆さんの作品を拝見しますと、プロとしての技術、工夫、それから何よりも研ぎすまされた感性を感じられ、改めてプロの写真の質の高さを実感しています。私ども富士フイルムは、写真文化を絶え間なく作り上げていくことで社会にコミットして事業を進めさせていただいております。アマチュアを対象にした富士フイルムフォトコンテストや30,000人の写真展など、さまざまな写真文化向上のための活動を続けていますが、そのなかにおいてもこの営業写真コンテストは質、技量ともに最高峰と位置づけられています。その頂点に立たれた皆さんの栄誉、日頃のご精進に改めて敬意を表したいと思います」と挨拶したあと、乾杯の発声で開宴。宴の途中、恒例となった、受賞者全員による1分間スピーチも行われ、受賞の喜びや作品のこと、家族・スタッフへの感謝の言葉が述べられ、感動あり、笑いありの和やかな雰囲気のなか、午後8時過ぎに全てのスケジュールが終了しました。

助野社長から表彰を受ける朝風さん

受賞者とそのご家族の皆さん

2016富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品発表展のご案内

東京展
2016年12月9日（金）～ 15日（木）
10：00 ～ 19：00（最終日は16：00まで）
富士フイルムフォトサロン／東京
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3 フジフイルム スクエア 1F
TEL.（03）6271-3351

大阪展
2017年1月27日（金）～ 2月2日（木）
10：00 ～ 19：00（最終日は14：00まで）
富士フイルムフォトサロン／大阪
〒541-0053 大阪市中央区本町2-5-7 メットライフ本町スクエア（旧大阪丸紅ビル）1F
TEL.（06）6205-8000

福岡展
2017年2月17日（金）～ 22日（水）
10：00 ～ 18：30
富士フイルムフォトサロン／福岡
〒812-0018 福岡市博多区住吉3-1-1 富士フイルムビル 1F
TEL.（092）289-7307

名古屋展
2017年3月10日（金）～ 16日（木）
10：00 ～ 18：00（最終日は14：00まで）
富士フイルムフォトサロン／名古屋
〒460-0008 名古屋市中区栄1-12-17 富士フイルム名古屋ビル 1F
TEL.（052）204-0830

仙台展
2017年4月13日（木）～ 25日（火）
10：00 ～ 17：30　※水・土・日・祝は休館
富士フイルムフォトサロン／仙台
〒983-0869 仙台市宮城野区鉄砲町西 1-14 富士フイルム 仙台ビル 1F
TEL.（022）292-0577

札幌展
2017年5月12日（金）～ 17日（水）
10：00 ～ 19：00
富士フイルムフォトサロン／札幌
〒060-0042 札幌市中央区大通西6-1 富士フイルム札幌ビル 1F
TEL.（011）241-7366

2016富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品は富士フイルムホームページでもご覧になれます。
http://fujifilm.jp/promotion/shashinkan/contest/index.html

※本書は本コンテストに応募いただいた写真館様に、お届けさせていただきます。
※本書に掲載の写真の著作権は、各撮影者に帰属します。無断使用、無断転載は一切禁止します。

2016富士フイルム営業写真コンテスト作品集
No. 184 スタジオメモ継承
発　行 ── 平成28年12月1日
発行所 ── 〒141－0031　東京都品川区西五反田3－6－32
富士フイルムイメージングシステムズ株式会社
営業推進部 プロ営業支援グループ　03(6417)3770

FUJIFILM
Value from Innovation

宝物のような一瞬を残す、確かな一枚。

2016 富士フイルム営業写真コンテスト 金賞「ハーフバースデー」朝風恵子 あさかぜ写真館

言葉では表現しきれない一瞬があります。写真館の技術と感性によって生み出される珠玉の一枚を、確かな技術に裏打ちされたプリントによってサポートするのが、写真館向けプロラボサービスです。銀塩写真ならではのプレミアムな輝きと存在感がここにあります。これからも、富士フイルムは、かけがえのない文化として、銀塩写真の魅力を伝え続けます。

フィルムから、データから、高品位なプリント・アルバムサービス。詳細はお取引ラボにご相談ください。

質を高めるプロラボ利用。
プロフェッショナル専用ペーパーの使用と、常に安定した色管理。出力のプロによる高品位プリントは写真館の信頼性アップに大きく貢献します。

効率を高めるプロラボ利用。
高度な技術が要求されるプリント、お客様の好みによって変わるアルバムへの対応。ラボの利用により、様々な業務の効率化が可能です。

余裕を生むプロラボ利用。
アルバム制作など、撮影後の作業をラボに依頼することで、お客様とのコミュニケーション、スキルアップなどにあてる時間の余裕が生まれます。

フィルムから、データから、高品位な銀塩プリント
写真館向け
プロラボサービス

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社　営業推進部　プロ営業支援グループ　〒141-0031　東京都品川区西五反田3-6-32　TEL.03(6417)3770